

# 第3学年 社会科「まちの人々の仕事」

## ◆本時の指導



### (1)本時の目標

販売の仕事と自分たちの生活に関わりがあることに関心をもつ。

### (2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	<p>1 資料の提示。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーバリューだ。</li> <li>・行ったことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が身近に感じる店を選択する。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     行ったことのあるお店について話し合おう。                 </div>	
展開	<p>2 自分や家族が買い物に行く店について話し合う。</p> <p>○家の人とよく買い物に行く店はどこですか。 そこでどんなものを買いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リビンに行く。食料を買う。</li> <li>・コンビニに行く。お菓子をかう。</li> <li>・マルエツに行く。食料を買う。</li> <li>・イオンに行く。洋服を買う。</li> </ul> <p>3 学習課題について話し合う。</p> <p>○「商店の仕事」について、どんなことを学習したい (知りたい・調べたい・考えたいこと)ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開店前・閉店後に何をしているのか。</li> <li>・お客さんの数を知りたい。</li> <li>・どのように商品を並べているのか。</li> <li>・お店の工夫を調べてみたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Google Maps を使って、知っている店の場所や様子を共有する。</li> <li>・ムーブノートに自分の考えを書き込んだり、友達の考えに「はくしゅ」したりする。</li> </ul> <p>★友達の発表に関心を持ち、つけたしたり、共感したりする。 (ムーブノートの機能・補助発問) </p> <p>◇ [態度] 地域に見られる販売の仕事について主体的に疑問や考えをもつことができたか。(発表・ムーブノート)</p>
まとめ	<p>4 もっと詳しく調べるための手立てを考える。</p>	

## ◆ 成果と課題

### 【成果】

身近な話題を取り上げ、Google マップで扱ったことで学習意欲につながった。

### 【課題】

ネット環境の不具合で、商店の仕事について知りたいことを共有する活動が十分にできず、「考えや気持ちを聞く・伝える力」の育成が難しかった。ネット環境の不具合があった際の代案を用意しておくことで、アンプラグドで考えや気持ちを聞く・伝える活動を設定できるように準備する必要がある。

# 第3学年 社会科「わたしたちのまち」

## ◆本時の指導



### (1)本時の目標

練馬区の航空写真を見て、区内を調べることに関心をもつ。

### (2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 練馬区の航空写真を見て、気付いたことを話し合う。 ・家が多い。 ・道路がある。 ・大きな公園がある。	・東京都や練馬区の位置をおさえる。 ・写真の方位を確認する。 ・電子黒板で詳細な写真を提示し、必要に応じて拡大する。 ・児童の「生き方」とつなげられるように、「練馬区」が児童にとっての「出身地」となることにふれる。
	調べたいこと・知りたいことをみつけましょう。	
展開	2 練馬区の様子について、知りたいことや調べたいことを話し合い、学習問題を立てる。 ・畑はあるが田がないのはなぜか。 ・学校はいくつあるのか。 ・どんな施設があるのか。	・練馬区の地図と照らしながら、自由に見られるようにする。 ・様々なものを発見する喜びを体験させる。 ★地域の一員としての自分のよさについて考える。 
まとめ	3 これから練馬区について調べることをおさえる。	・「ねりまくしょうかいポスター」を作ることにふれる。 ◇航空写真と区の地図を見て、気付きや問いを見出している。(発言・ノート)

## ◆ 成果と課題

### 【成果】

児童にとっていま住んでいる練馬区がやがて「出身地」になるであろうことにふれ、航空写真で全体をながめたことは「児童の生き方」の視点につながった。

### 【課題】

Google Maps など、ICTを活用することで航空写真から考えを広げる活動の効率化を図り、地域の一員としての自分のよさについて考える活動に繋げることで、「自分のよいところを見つける力」を育成することができると思われる。

# 第3学年 社会科「安全なくらしを守る」

◆本時の指導（第10時／全10時間）



(1)本時の目標

火災から安全を守る働き（消防）について、学習したことをまとめる。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 学習問題を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1時の板書の写真データを、電子黒板を使って提示する。</li> </ul>
	<p>火事から人々の安全を守るために、だれが、どのようなはたらきをしているのだろう。</p>	
展開	<p>2 消防署の働きについて振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すぐに現場に行けるように、日ごろから訓練や準備をしていた。</li> <li>火災が発生していないときは、火災予防の呼びかけをしたり、施設や設備の点検をしたりしていた。</li> </ul> <p>3 火災発生時の関係機関の働きについて振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害救急情報センターからの連絡でたくさんの人たちが協力していた。</li> <li>練馬区の周辺地域からも応援にくる仕組みがあった。</li> </ul> <p>4 地域の消防に向けた働きについて振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消防団が安全を守るために働いていた。</li> <li>防災のためのさまざまな施設があった。</li> </ul> <p>5 自分たちにできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>火災予防のポスターや標語を作る。</li> <li>消防少年団に入って、夜警を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防の働きについて、消防署の働きとその他の機関を分けてまとめる。</li> <li>これまでのノートを見返しながら振り返らせる。</li> <li>ワークシートを用意し、必要な児童には配布する。</li> <li>東京消防庁HPの統計資料や動画資料を見せて、振り返らせる。</li> </ul> <p>★消防、様々な関係機関、地域の取組とともに、 「自分ができること」を考えさせることにより、地域の一員として社会参画の意識を育むと共に、自分も社会のためにできることがあるというよさに気付く。</p>
まとめ	6 本時の学習を振り返り、火災から安全を守る働きについてまとめる。	◇火災から安全を守る働き（消防）について、学習したことを理解している。（ノート）

## ◆ 成果と課題

### 【成果】

単元の学習を振り返った後、改めて自分ができることを考え、共有する活動を取り入れることで、自分にも地域のためにできることがあるということに気付くことができた。自分が地域のためにできることがあるということを知ること、自分のよいところを見つける力を育成することができた。

### 【課題】

自分が地域のためにできることに関して、「気を付ける」「意識して過ごす」などの抽象的な表現もあったため、「どのように」取り組むつもりなのかを問い返すことでより、発想を具体化させていく必要がある。

11/22 No.9

**消防署** 1分で準備

〈火事の時〉 火を消す  
 現場に何人で 人を助ける

〈火事がない時〉 やり方 力 時間

・訓練 火事が起きておもしろいように  
 ・車の点検  
 ・連絡待ち やり方教える・かみん  
 ・打ち合わせ・マンホールの点検

**消防署以外**

・東京消防庁… 連らくを受ける/する  
 ・警察署… 交通整理をする  
 ・水道局… 水がたたく人出るようにする  
 ・ガス会社・電気会社… ガス 電気を止める  
 ・病院… けが人の対応  
 ・消防団・消防少年団… 消火の手伝いなど

**自分たちでできること**

① 火のあつかりに気を付ける ② ガスのあつかり  
 ③ 安全に火を使う ④ 火あそびしない 気を付ける  
 ⑤ 火を使うときはこまめに消す ⑥ 火をつけっぱなしにしない  
 ⑦ 火事につながるものがある  
 ⑧ 火事を見たら知らせる  
 ⑨ すぐにはげる ⑩ 連らく  
 ⑪ 火事に備える  
 ⑫ 連らくの準備

安全に  
 すぐ連らく

# 第3学年 算数科「わり算や分数を考えよう」

## ◆本時の指導



### (1)本時の目標

もとの大きさが異なるものの等分した数について理解する。

### (2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 前時を振り返る。	・「等分する」という意味に着目させ、分数とわり算の関係を確認する。
	2つの長さの4分の1の長さをもとめ、そのちがいについて考えよう。	
展開	2 テープの長さの4分の1の長さの求め方を考える。 ①84cmの4分の1の長さを求める。 $84 \div 4 = 21$ 21cm ②88cmの4分の1の長さを求める。 $88 \div 4 = 22$ 22cm	・図、絵、式・・・などを活用し、自由に考えることができるようにする。  ★【自己理解・自己管理能力】 ・主体的行動 ・忍耐力
	3 求め方を発表する。	・「やればできる」と考えて行動できる力
	4 もとの長さの4分の1の長さが異なる理由を考える。 ・もとの長さがちがうから。 ・テープの長さが84cmと88cmでちがうから。	・前時で80cmの4分の1の長さは、 $80 \div 4$ の除法の式で求めたことを想起させる。 ★【人間関係形成・社会形成能力】 ・他者の考えを理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝える力 
	5 理由を発表する。	◇分数と除法の関係をを用いて計算することのよさに気づき、学習に生かそうとしている。 ◇もとの大きさに着目して、4分の1の長さが異なる理由を考え、説明している。
まとめ	6 本時の振り返りをする。	
	もとの長さがちがうから、その4分の1の長さもちがう。	
	7 次時の学習内容を知る。	【次時】この単元を振り返り、まとめをする。

## ◆ 成果と課題

### 【成果】

ミニホワイトボードを使うことで主体的に活動することができたり、他者の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができた。

### 【課題】

実際にテープを使って長さの違いを視覚的に示し、体験させる工夫をするなどの手立てが必要だった。

# 第3学年 算数科「時刻と時間を求めよう」

◆本時の指導（第3時／全5時間）



(1) 本時の目標

ある時刻から一定時間後の時刻の求め方を考え、説明することができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 時刻や時間について振り返る。 2 課題を捉え、解決の見通しをもつ。	・スライドを使って既習の時刻と時間について振り返り、時刻と時間の違いを確認させる。
	「何時に学校に着くか分からない」とこまっているEたろう君に時こくを教えてあげるには、なにが分かればいいでしょう。  ・家をいつ出発するか。 ・家から学校まで何分かかるのか。 ・どうやって時刻を求めるのか。	★【課題対応能力】課題を分析し、課題の解決のために必要な情報がなにか考える。 
展開	3 時刻の求め方を考える。 ・言葉で考える。 ・時計の図で考える。 ・数直線で考える。	・分かっていることや求めていることを時計の図や数直線と対応させる。 ・言葉と図を関連させて考えられるようにするため、図の中に数や言葉を書くように助言する。
	4 考えを発表し合い、検討する。	◇文章や時計の図、数直線を用いて、ある時刻から一定時間後の時刻の求め方を考え、説明している。（ノート）
まとめ	5 時刻や時間の求め方をまとめる。	「何分後」の時刻は、数直線や時計の図を使うともとめやすい。
	6 適用問題に取り組む。	

## ◆ 成果と課題

### 【成果】

条件不足の問題を提示することで、課題を分析し、課題の解決のために必要な情報がなにかを考えるという課題対応能力を育成することができた。

今回の実践に限らず、問題解決型の授業を展開する際には、同様の流れで条件不足の問題を提示し、児童と解決のために必要な情報を考えるような経験を積み重ねることで、次のことを考える力を育成することができると考えられる。

### 【課題】

問題解決の時間を確保するために、課題の分析を効率的に行うことができるように、問題の提示の仕方や発問の仕方を工夫するなどの手立てが必要だった。

# 第3学年 理科「じしゃくのふしぎ」

◆本時の指導（第2時／全5時間）



## (1)本時の目標

磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があることを理解する。

## (2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 前時に見付けた課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                         どのようなものが磁石に引き付けられるのでしょうか。                     </div>	「付く」ではなく、「引き付けられる」という表現を使うとよいことを知らせる。
展開	2 予想をする。 ・電気を通す物と同じように何でできているかによって引き付けられるかどうかがわかる。 ・金属は引き付けられる。 ・釘、10円玉、アルミニウム、ゴム、ガラス、段ボール、はさみ、ペットボトル空き缶、わりばし等・・・ ・その他、身の回りの物が磁石に引き付けられるか、引き付けられないかを予想する。 3 実験をする。 ・実験計画を立てる。 ・磁石に引き付けられた物には○シール、引き付けられなかった物には×シールを張る。 4 結果を発表する。 5 考察する。 ・自分の考えを書き、発表する。	・普段の生活や、電気を通す物を調べたときのことを想起しながら考えさせる。 ★自分の考えをしっかりともち、予想する。 ◇積極的に予想をし、実験に取り組んでいる。 ・形や色、大きさ、硬さ、材質などいろいろな種類を調べるよう助言する。 ★自分の考えを相手に分かるように伝える。 ★集中して相手の話を聞き、話の中心を考えて聞き取り、相手の考えを理解する。
まとめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                         物には磁石に引き付けられる物と、引き付けられない物があり、鉄は磁石に引き付けられる。                     </div>	◇磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があることを理解している。

## ◆ 成果と課題

### 【成果】

教科書に掲載されている物以外にも、小さな物や大きな物、同じものであっても材質が違う物など児童が興味をもったものについて自由試行させることで、主体的に行動する力につながった。

### 【課題】

自分の考察が書けていても、指名をすると発表することができるが、自ら挙手をして自信をもって自分の考えを相手に伝えることができない児童もいた。「自分のよいところを見つける力」「考えや気持ちを聞く・伝える力」を育成し、自分の考えを相手に分かるように伝えることができるようにする必要がある。

# 第3学年 図画工作科「デコボコさん大集合」

## ◆本時の指導（第3時/全8時間）



### (1)本時の目標

紙版画の仕組みを知り、紙や、他の身近な材料を組み合わせ、デコボコのある「デコボコさん」を工夫して作る。

### (2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 前時に作った作品を見ながら振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙の材料で、「デコボコさん」（紙版画の版）を作ったことを振り返る。 [実物投影機]</li> <li>えんぴつなどで描くのではなく、材料を重ねてはってデコボコさせることで、紙版画として写せることを、いま一度確認する。</li> </ul>
展開	紙や、ほかの材料を組み合わせ、デコボコのある「デコボコさん」を工夫して作りましょう。	
	2 どのような「デコボコさん」を作ろうか想像し、片面段ボールや、プッチンマットなどの材料を、切って貼る。	<p>★後でインクで刷ることを想像しながら、材料をはって、デコボコを作ることを通して育む、次のことを考える力。</p> <p></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>片面段ボールや、プッチンマットなどの材料により、デコボコの模様が違うので、その特徴をいかし、自分のイメージにあうように切って、貼る。</li> <li>はがれないように、ボンドでしっかりはるようにする。</li> </ul> <p>◇紙や、他の材料を組み合わせ、デコボコのある「デコボコさん」を工夫して作っている。（作品）</p>
まとめ	3 今日の活動を振り返る。 4 片付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>工夫して作ったところを発表し、見合う。</li> </ul>

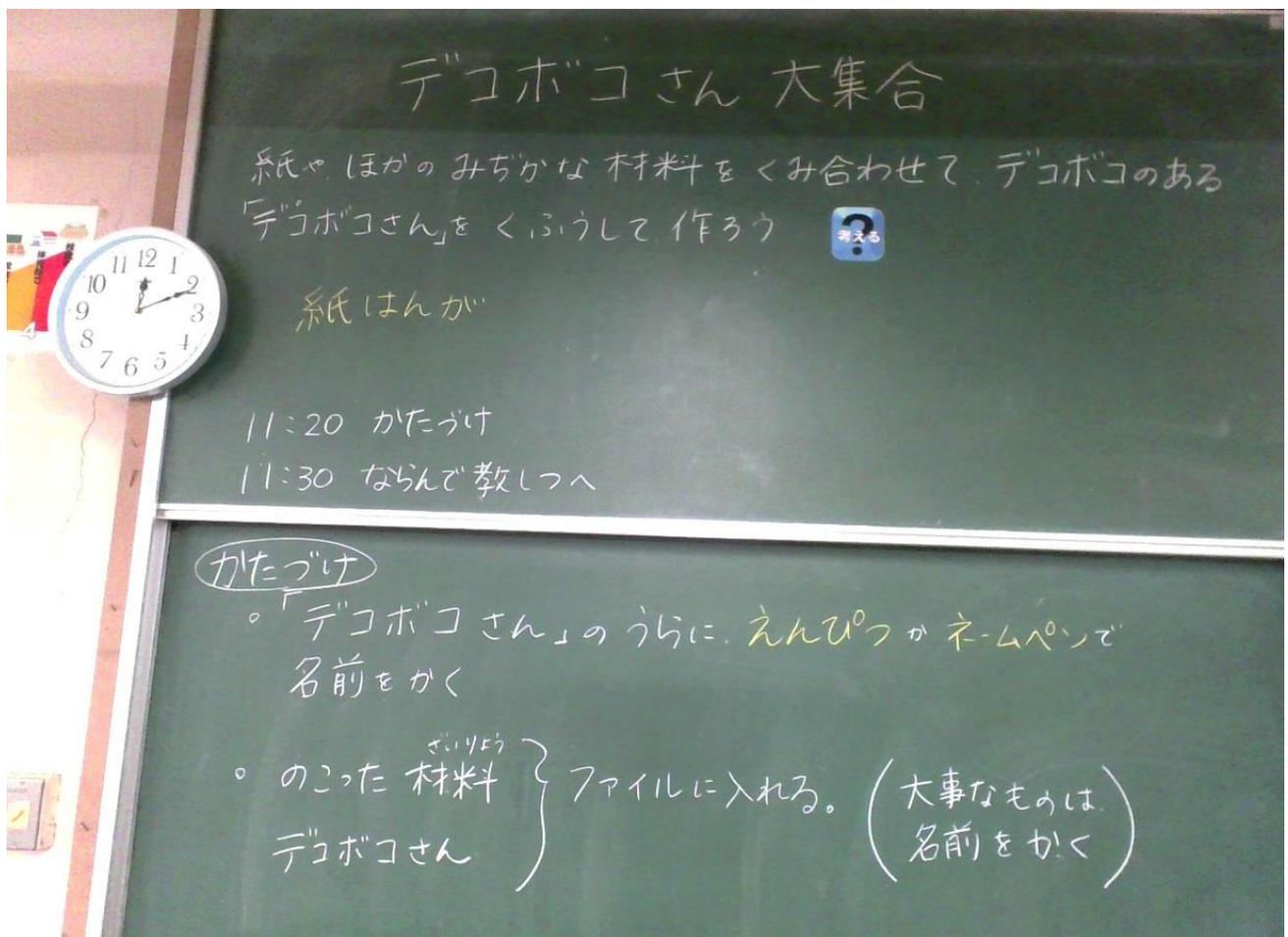
## ◆ 成果と課題

### 【成果】

後でローラーやインクで刷って写すために、デコボコのある「デコボコさん」（版）を作ることが必要であることがわかり、次のことを考えて、今、何をするとよいか考えて作るという学びとなった。

### 【課題】

紙版画の人形である「デコボコさん」のイメージが広がらず、友達と似た形の生き物を作る児童がいたため、自分なりの発想をもつことができるような活動を設定する必要があった。



# 第3学年 道徳科「みんながくらしやすい町」

## ◆本時の指導



### (1)本時の目標

相手の状況に配慮し、親切な行為を自ら進んで行おうとする実践意欲と態度を育てる。

【B 親切, 思いやり】

### (2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 「みんながくらしやすい町」について、最初の考えを共有し、本時の問いを立てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が暮らしやすいかどうかしか考えられていない児童に対しては、「みんな」がくらしやすい町について考えていることを確認する。</li> </ul>
	「みんながくらしやすい町」にするために大切なことは何だろう。	
展開	<p>2 「みんながくらしやすい町」の絵を見て、親切な行いをしている人とその人の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お金を落としてしまった人のお金を拾ってあげている人がいる。</li> <li>→相手が困っているみたいだ、助けてあげよう。</li> <li>→一緒に拾ってあげたら相手が喜ぶかな。</li> <li>→落としてしまった人は、落としたら恥ずかしくて、早く拾ってしまいたいと思うんじゃないかな。</li> </ul> <p>3 自分の住む町を「みんながくらしやすい町」にするために、どんなことができるかについて、グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>困っている人がいたらお互いに助け合う優しさがあふれる町にしたい。</li> <li>自分よりも他人のことを考えて、親切にする人がたくさんいる町にしたい。</li> <li>困っている人に優しくできる町にしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拡大した図を黒板に貼り、発言を書き込んでいく。</li> <li>同じ親切にしている人を見つけても、気持ちは様々に想像できるため、意見を繋げて発表させる。</li> <li>「誰が」困っているのか、「誰が」喜ぶのかななどを確認することで、「相手の状況に配慮している」ことを意識させる。</li> </ul> <p>★共通の問題解決のための話し合いを行う。 </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が「親切な町」「安心できる町」などの抽象的な表現をした場合には、「どんな人がいるのかな」「もう少し詳しく教えて」と切り返すことで、具体的に語りやすくする。</li> </ul>
まとめ	4 学習を振り返る。	◇相手の状況に配慮し、親切な行為を、今後自ら進んで行おうとしている。

## ◆ 成果と課題

### 【成果】

「みんながくらしやすい町にするために、どんなことができるのか」という共通の問題についての話し合い活動を設定したことにより、多くの班で主体的に話したり、聞いたりする姿が見られたことから、考えや気持ちを聞く・伝える力を育成することができたと考えられる。

### 【課題】

一部話し合いの観点が決まっていない班があり、価値についての話し合いが充分深まらない様子が見られた。発問を工夫し、より具体的に考えさせることができるようにする必要がある。

10/27

「みんながくらしやすい町」にするために大切なことは何だろう。

- みんながくらしやすい町
  - 悪い人がいない (けいせつ)
  - ・助け合っている (協力)
  - ・気がかかっている
  - ・やさしい
  - ・あぶない事が少ない
  - ・あそび場がない
  - ・きれい (人の気持ち)
- 外国人に何かを教える
  - ・お金を払ってあげている
  - ・こまにいる人を助けよう・いたよ
  - ・こまにいるから助けよう
  - ・違うところに行ったら大変だ
  - ・車いすの人を助けている
  - ・少年は大丈夫かな
  - ・少年のことが心配
- みんながくらしやすい町にするために自分たちができること
  - にきくももをあげる
  - おいちのみをあげる
    - ・重たいから持たせよう
  - ハンカチを落したことを教えてあげる
  - ・落した人を助けてあげよう
  - ・自分たちができる



# 第3学年 道徳科「わたしらしさ」をのぼすために

## ◆本時の指導



### (1)本時の目標

自分のよさを考えることを通して、自分の特徴に気づき、長所を大切にしていこうという心情を育てる。【A 個性の伸長】

### (2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 「わたしらしさ」について考える。	★「すき」「とくい」なことだけでなく、「すき」なこともあげてもらうことで、自分のよいところに気付く。 
	「わたしらしさ」を見付け、のぼしましょう。	
展開	2 「わたしらしさをのぼすために」を読んで話し合う。 ○吉田さんや若田さんの「わたしらしさ」とはどんなところだと思いますか。 ・スポーツが得意なところ ・練習熱心なところ。 ・失敗してもあきらめないところ。 ・失敗は力になると思っているところ。 ○友達の「わたしらしさ」を見付けて伝え合いましょう。 ・テストでいつもいい点を取っているところ。 ・体育が得意なところ。 ・友達にやさしいところ。	・グループで話し合わせる。 ・話し合いのあと、ムーブノートで共有する。  ・班のグループから全体へ広げ、たくさんの友達に送れるように声かけをする。【オクリンク】  ★友達の「わたしらしさ」を見付けて伝え合う。 
まとめ	3 「わたしらしさ」をさらに伸ばすためにどうしたらよいか考える。	◇自分のよさやがんばっていることに気が付くことができた。(ムーブノート)

## ◆ 成果と課題

### 【成果】

お互いのよいところを見つけて伝え合う活動を通し、自分のよさに自信をもつことができたと思う。それぞれ自己肯定感が上がることにつながった。

### 【課題】

考えや気持ちを聞く活動の時間を確保するために、ICTツールの使用回数を吟味し、効率的な活動を設定する必要がある。

# 第3学年 道徳科「三年元気組」

## ◆本時の指導



### (1)本時の目標

自分の特徴に気付き、長所をのばそうとする意欲を育てる。

【A 個性の伸長】

### (2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 いま自分ががんばっていることを発表する。	★「いまがんばっていること」が自分のよさにつながるのかを考える。 
	自分のよいところを見つけ、のばすためには、どんな気持ちか大切なのでしょうか。	
展開	2 「三年元気組」を読んで話し合う。 ① 「ぼく」は、どうして話す気になれなかった「読書」のことを話すことにしたのでしょう。 ・好きなことを続けることが自慢になるとわかったから。 ・読書を続けていることが自分のよいところだと気が付いたから。 ② 高学年向けの本に挑戦した「ぼく」は、どんなことを考えていたでしょう。 ・自分にもよいところがあった。うれしい。 ・応援してくれたみんなのためにもがんばるぞ。 ・自分の長所を伸ばしていくことって楽しみだな。 ③ 友達と、お互いのよいところやがんばっているところを伝え合ひましょう。	・自分を肯定的に受け止めた「ぼく」の心情をおさえる。 ・担任の助言や友達の言葉とつなげて考えさせる。  ・「自分に対して」「みんなに対して」「人として」の枠でとらえ、分類して板書する。 ・自分のよさをさらに伸ばしていきたいと考える「ぼく」の姿をおさえ、展開後段につなげる。  ・班のグループから全体へ広げ、たくさんの友達に送れるように声かけをする。【オクリンク】 ★互いのよいところやがんばっているところを伝え合う。 
まとめ	3 伝え合った感想を共有する。	◇自分のよさやがんばっていることに気が付き、それを伸ばそうという意欲をもつことができた。 (ムーブノート)

## ◆ 成果と課題

### 【成果】

お互いのよいところを見付け、伝え合う活動は各々の自己肯定感が上がることにつながったように思う。

### 【課題】

互いのよいところやがんばっているところを伝え合う活動に十分な時間を確保することができなかった。前段における共有を効率的に行うことにより、伝え合う活動の時間を確保する必要がある。

## 第3学年 学級活動(2)「3年生になって～本気で夢をかなえよう～」

### ◆本時の指導（第1時／全6時間）



#### (2) 本時の目標

自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。いろいろな職業や生き方があることに気付くと共に、自分の将来の夢や生き方、近い未来や目の前の目標などについて考える。

#### (2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 自分の「好き」や「楽しい」、よいところを伝え合う。	・友達の「好き」や「楽しい」、よいところを共有し、認め合えるようにする。
	自分の将来の夢や、目の前の目標について考えよう。	
展開	2 教師の生き方に触れる。 ・先生クイズに挑戦する。 3 将来の夢や近い未来の目標を一つ宣言する。 ①自分の好きなことや楽しいと思うことと、夢や目標とのつながりについて考える。 ②夢や目標を発表する。 ③友達の夢や目標を共有し認め合う。	◇いろいろな職業や多様な生き方があることに気付いている。 ◇自分のやりたいことや、よいと思うことを考え、自分の将来や近い未来について考えようとしている。 ★自分のよさに気付き、将来の夢や目標、またその関連性を見付ける。   ・現時点で、将来の夢や近い未来の目標が見つからない場合は、身近な日常の生活や学習、自分の好きなことや、楽しいと思うことと関連付けて考えることができるようにする。
まとめ	4 本時の振り返りをする。 5 次時の学習内容を知る。	<次時>どんな人がそれになれるのか、また、なるために何が必要なのかを考える。

## ◆ 成果と課題

### 【成果】

自分の好きなことや楽しいことを考えることによって、自分について、また、自分の夢や将来について考える機会となった。

### 【課題】

考える内容や活動が多岐に渡ったため、児童自身、自分の考えを整理しがたい様子が見られた。本時を2時間に分けることで、児童が自分の考えを整理する時間を確保する必要があった。

## 第3学年 学級活動(2)「本気で夢をかなえよう～ほめほめ言葉のシャワー～」

### ◆本時の指導（第3時／全6時間）



#### (1)本時の目標

友達よいところを認め共有するとともに、自分のよさや可能性を見付け、自己肯定感を高め、互いのよさを生かすようなよりよい人間関係形成を図る。

#### (2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 前回までの「ほめほめ言葉のシャワー」を振り返る。	・事実と気持ちを整理し、区別して付箋に書く。
	互いのよさを見付けよう。	
展開	2 友達のよいところを見付ける。 ・友達のよいところを思い浮かべ、付箋に書く。	・分かりやすく伝えるために、事実と気持ちを区別し、具体的に書くように声掛けをする。 ◇主体的に友達のよいところを付箋に書いている。（付箋）
	3 友達のよいところを伝える。 ・書いた付箋を友達に渡す。	★友達の個性をよいところと捉え、それを言葉にして付箋に書く。 ★学級や学校生活において互いのよさを見付け、自分の考えを正確に伝えたり、仲良く信頼し合ったりして生活していこうとする。
	4 自分のよさや可能性を見付ける。 ・友達からもらったほめほめ言葉を読む。	★友達から受け取ったほめほめ言葉を、前向きに捉え、自分のよさと考える。
	5 自分のよいところを発表する。 ・友達からもらったほめほめ言葉をみんなに伝え、クラスで共有する。	★自分のよいところに自身をもって、発表する。
まとめ	6 本時の振り返りをする。	★自分のよいところや可能性に気付き、自分に自信をもつ。 ・自分に自信がもてるように助言をし、今後の活動に自信をもって取り組むことができるようにする。

## ◆ 成果と課題

### 【成果】

日頃から他者の個性を理解する学級での雰囲気作りや取り組みが生き、友達の良いところを見付けたり、伝えたりする活動に積極的に取り組めた。

### 【課題】

ほめほめ言葉を受け取り、自分に自信がもてる児童が多いが、自信にまでは繋がらない児童も見られた。この活動を一年間を通して行うことで、計画的に「自分のよいところを見つける力」を育成する必要がある。